

星空は魅力がいっぱい 9年後には皆既日食も



こどもの国 アストロカー講師へインタビュー



こどもの国アストロカー講師
日本宇宙少年団佐野分団リーダー
太田 春樹さん

退職後はアストロカー講師として活動

私はもともと高校で理科の教員をしており、専門は地学でした。

こどもの国が開館した年から日本宇宙少年団の佐野分団の活動に関わり、分団長を務めさせていただきました。日本宇宙少年団は、宇宙を通して世界の人たちと仲良くなろう、宇宙を目指す子どもたちを育てようという理念のもと活動している団体です。

教員を退職してからは、アストロカーの観察会にも関わるようになり、講師として活動して12年ほどになります。アストロカーは天体望遠鏡を搭載した移動式の観測車で、小学校

や児童館などに出向き、車内で星や月、惑星などを観察することができます。昼間の観察会では、星は見えないため、主に太陽を観察し、黒点などを見ることもあります。

アストロカーで体験する天体観察

アストロカーで観察会を行うときは、まず望遠鏡を見たい天体に合わせる作業が大切になります。天文台の望遠鏡は、コンピューター制御で指定した星に正確に向けることができますが、移動式の望遠鏡は微調整が必要です。一度合わせてしまえば、地球の自転によって星が動いても、自動追尾機能によって同じ天体を追い続けてくれます。

子どもたちが望遠鏡で月や惑星を見ると、「すごい」と驚く声をよく聞きます。肉眼で見るとは全く違う姿が見えるため、とても喜んでくれます。初めて望遠鏡で天体を見る子どもも多く、その感動が天体への興味につながればうれしいです。

星空そのものはどこでも同じですが、見え方は周囲の明るさに大きく左右されます。街の明かりが少ない場所ほど星はよく見えます。冬は空気が澄んでいて、暗くなるのも早いので観察に適しています。また、冬は明るい一等星が多いので、星を見つけやすいという特徴もあります。

星空観察を始めてみよう

これから星空観察を始めてみたい人には、まず月を観察することをおすすめします。月は1カ月の間に形や見える時間が変わります。小さな望遠鏡で

もクレーターを見ることができ、月の表面の様子にきつと感動すると思います。そこから星や惑星へと興味を広げていくと、さらに天体観察が楽しくなります。

また、木星や土星もおすすめです。望遠鏡で見ると、土星の輪や木星のしま模様、そして木星の衛星などを観察することができます。こうした天体を実際に見ることで、宇宙をより身近に感じることができると思います。

2035年は皆既日食に注目

2035年には日本でも皆既日食が観測できるといわれています。日食は世界のどこかで毎年起こっていますが、同じ場所で皆既日食が見られる機会は非常に少なく、とても貴重な現象です。皆既日食になると昼間でもかなり暗くなり、まるで夜のような雰囲気になります。

観察する際には、太陽を直接見るのは危険なので、必ず日食観察用のメガネを使う必要があります。もし専用のメガネがない場合は、小さな鏡で太陽の光を壁に映す方法などもあります。これはピンホールカメラと同じ原理で、太陽が欠けていく様子を安全に観察することができます。

まずは身近な場所で空を見上げてみてほしいと思います。自宅の上の空でも、意外とたくさん星が見えることがあります。そうした体験が、宇宙に興味を持つきっかけになればうれしいです。

2035年9月2日は皆既日食



本州で皆既日食が観測されるのは、1887年8月以来、148年ぶりです。

皆既日食は、皆既帯と呼ばれる帯状の地域でのみ観測でき、その範囲外では部分日食となります。

今回の皆既帯には佐野市も含まれています。太陽・月・地球が一直線に並ぶことで起こる特別な天体現象を楽しみましょう。



部分日食



皆既日食



金環日食

皆既日食の仕組み

